

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	田村 映理
論文担当者	主査 古江 秀昌
	副査 金澤 伸雄
	副査 松永 寿人
学位論文名	Patients with central serous chorioretinopathy have high circulating alpha-klotho concentrations (中心性漿液性脈絡網膜症患者では血中 $\alpha$ クロトー濃度が高い)
論文審査結果の要旨	
<p>ストレスは中心性漿液性脈絡網膜症(以下 CSC)の危険因子であるが、適切なバイオマーカーは特定されていない。一方で、<math>\alpha</math>クロトーは、老化遺伝子 klotho によりコードされ、腎臓等の臓器で発現して循環器系にも存在し、健常者において心理的ストレスや喫煙によりその血中濃度が上昇し、この反応が生体防御の一部と考えられている。そこで本研究は、<math>\alpha</math>クロトーが CSC 患者におけるストレス指標を示す潜在的バイオマーカーとなり得るか検討した。</p> <p>急性または慢性 CSC と診断され、治療を受けた患者 (男性 46 例、女性 10 例、急性 38 眼、慢性 18 眼) と性別・年齢をマッチさせた健常者 (男性 19 例、女性 8 例) で、両者の血中<math>\alpha</math>クロトー濃度を比較した。また、年齢、性別、喫煙状況、黄斑中心窩下脈絡膜厚(SFCT)と血中<math>\alpha</math>クロトー濃度の関連性を評価した。さらに、CSC 患者の急性と慢性や、治療後の網膜下液の再発の有無で血中<math>\alpha</math>クロトー濃度を比較した。</p> <p>CSC 患者の血中<math>\alpha</math>クロトー濃度は対照群より有意に高値を示した (平均<math>827 \pm 232</math> および <math>724 \pm 183</math> pg/mL; <math>p=0.035</math>)。血中<math>\alpha</math>クロトー濃度と年齢、性別、喫煙歴、SFCT との間に有意な関連性は認められなかった。また、急性 CSC 患者の平均血中<math>\alpha</math>クロトー濃度は、慢性 CSC 患者よりも有意に高かった (平均 <math>877 \pm 226</math> および <math>721 \pm 214</math> pg/mL; <math>p=0.036</math>)。CSC の再発は 56 眼中 10 眼 (17.9%) で認められ、再発例では、非再発例と比較して有意に高い血中<math>\alpha</math>クロトー濃度を示した (<math>p=0.0219</math>)。以上より、CSC 患者で血中濃度が高い<math>\alpha</math>クロトーが当該患者のストレス指標となり得ることが示唆された。</p> <p>本研究は、CSC の危険因子であるストレスとそれに伴って上昇する<math>\alpha</math>クロトーに着目し、CSC 患者の慢性時・再発の観点から<math>\alpha</math>クロトーがストレスの指標となり得ることを新規に示した重要な研究である。加えて、未だ特定できていないバイオマーカーの開発に本成果が大いに寄与できることから、学位論文に値すると評価した。</p>	